

海大歯第161号
令和2年9月18日

関係機関等の長 殿

国立大学法人北海道大学
大学院歯学研究院長 八 若 保 孝
(公印省略)

口腔機能学分野口腔機能解剖学教室教授候補者の公募期間延長について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本研究院では口腔機能学分野口腔機能解剖学教室教授候補者を公募しておりましたが、より幅広く人材を求めるため、公募期間を延長することといたしました。

口腔機能解剖学のみならず解剖学全般に関連した教育・研究能力に優れ、かつ歯学研究院、歯学院、歯学部、北海道大学の管理運営にも積極的な役割を果たしてくださる人材を教授に招聘したいと考えております。

大学院教育としては現在口腔機能解剖学教室が担当している共通科目および口腔機能学専修の講義と大学院生の研究指導を、学部教育としては歯の解剖学、解剖学・口腔解剖学Ⅰ・Ⅱの講義ならびに実習等を、さらに全学教育科目も担当していただきます。研究においては口腔機能解剖学ならびにその関連分野における基礎的および臨床的研究について教室員および大学院生を指導し、学際的・国際的に高く評価される研究を展開できる人材を求めます。

つきましては、ご多忙のところ恐縮に存じますが、貴機関等の関係者にご周知くださいますとともに、適任者をご推薦賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

※ 公募要領については、

本研究院ホームページ (<https://www.den.hokudai.ac.jp/jimu/koubo/>) 及び研究者人材データベースシステム (<http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>) でもご覧になれます。

国立大学法人北海道大学大学院歯学研究院
口腔機能学分野口腔機能解剖学教室教授候補者
公 募 要 領

I. 提出書類

下記の1～10の書類各1部と、2～10をスキャナー等で電子化しそれぞれPDFファイルで保存した記録媒体（CD，DVD，USBメモリ等）

1. 推薦書
2. 履歴書（別紙様式1）
3. 教育等の業績
4. 研究業績目録
5. 主要論文別刷
6. 研究助成金の受領状況
7. 共同研究等の実施状況
8. 系統解剖実習におけるご遺体の管理状況
9. その他の活動，社会貢献等
10. 教育，研究，管理・運営に対する考え方
（提出書類の作成に際しては，別紙記載上の注意事項を参考にしてください。）

II. 応募締切 令和2年10月9日（金）必着

III. 提出先

〒060-8586

札幌市北区北13条西7丁目

北海道大学歯学事務部庶務担当

電話 011-706-4313（直通）

（注） 提出書類は書留とし，封書表には「口腔機能学分野口腔機能解剖学教室教授候補者応募書類在中」と朱書願います。

なお，ご送付いただいた書類および記録媒体は返却いたしませんので，予めご了承ください。また，ご送付いただいた書類等は教授候補者選考以外には一切使用いたしません。

IV. 照会先

口腔健康科学分野 教授 網塚 憲生

電話 011-706-4223（直通）

電子メール amizuka@den.hokudai.ac.jp

V. 待遇

1. 任期の定め なし

- 2. 試用期間 あり（3ヵ月）
- 3. 給 与 国立大学法人北海道大学職員給与規程又は
 国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程による
- 4. 勤務形態 専門業務型裁量労働制を適用
 ※1日に7時間45分労働したものとみなす
- 5. 健康保険等 文部科学省共済組合，厚生年金，労災保険，雇用保険加入

VI. 募集者の名称 国立大学法人北海道大学

VII. その他

選考の過程において，ご来学の上，ご講演及びご面談をお願いすることがあります．

記 載 上 の 注 意 事 項

＜用紙はすべてA4版縦とする＞

1. 推薦書

推薦書の様式は自由であるが、推薦者の所属・職名を明記すること。

2. 履歴書

- 1) 年齢欄には、令和2年8月31日現在の年齢を記載すること。
- 2) 学歴欄には、高等学校卒業以降の学歴を記載すること。
- 3) 学位欄には、() 書きで授与された大学名を併記すること。
- 4) 職歴欄には、所属の講座、診療科名等も記載すること。
- 5) 留学欄には、期間、受入施設名、国名、身分を記載すること。
- 6) 受賞等欄には、学会賞等の受賞について記載すること（本人筆頭のものに限る）。
- 7) 所属学会欄には、学会名及び役職名等を記載すること。

3. 教育等の業績（下記の項目に該当するもの、大学院時代からの業績も含む）

1) 講義

学部学生と大学院生の講義について、それぞれの担当授業科目名、担当内容（簡潔に）、担当年度（期間）、担当時間数を記載すること。また、講義において、教育効果を高めるために試みたことがあるときは、その内容も記載すること。

2) 実習

学部学生、医員（研修医）及び大学院生の実習について、それぞれの担当内容（簡潔に）、担当年度（期間）、担当時間数を記載すること。特に、系統解剖実習において、教育効果を高めるための工夫や試みたこと、ならびに、実習環境を整えるために実施したことなどについて記載すること。

3) 博士論文の指導状況

これまでに応募者が研究指導を行った博士論文について、著者全員の氏名（欧文の場合は、名はイニシャル）、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序で記載し、その後に応募者の指導内容（役割）を記載すること。なお、応募者の氏名が研究指導者として論文に明記されていないものであっても、応募者が実質的に研究指導を行った論文については、これに含めて差し支えない。また、原著論文と重複しても差し支えない。

4) 学生指導

学部及び大学院学生等の個別指導（クラス担任、学生相談、クラブ活動、留学生指導等）の時期及び内容を記載すること。

5) 委員会活動

大学外における各種委員会活動について、その時期（期間）及び委員会名とその委員会での役割を記載すること。

4. 研究業績目録

以下の順序で記入し、1) から 6) の各項目別に通し番号を付すこと。また、記載はすべて年代順とし、本人の名前に下線を引くこと。

1) 著書

① 編著者の場合

編著者全員の氏名、発行年（西暦）、書名、発行社名、発行地、総ページ数の順序で記載すること。

② 分担執筆の場合

分担執筆者全員の氏名、発行年（西暦）、分担執筆部分のタイトル、編者名、書名、発行社名、発行地、記載ページ（始めと終わり）の順序で記載すること。

2) 原著論文

著者全員の氏名（欧文の場合は、名はイニシャル）、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序で記載すること。また、原著論文のうち、レフリー制度をもつ論文については、通し番号を○印で囲むこと。さらに、英文原著論文については、**impact factor** のある論文とない論文に分け、論文の最後に、発行時の **impact factor** および応募時点での **citation index** を、(IF: , CI:) のようにカッコ書きで付記すること (Clarivate Analytics 社の Web of Science Core Collection を用いて検索のこと)。

3) 総説・症例報告・速報・その他の論文（商業誌等）

前記 2) に準じて記載すること。

4) 特別講演・シンポジウム等

これらはすべて筆頭演者として招待されたものに限る。発表者全員の氏名（欧文の場合は、名はイニシャル）、発表年（西暦）、発表タイトル、学会名等（抄録誌、巻、ページ）の順で記載すること。

5) 主な国際学会発表

筆頭演者として発表したものに限り、前記 4) に準じて記載すること。共同演者として発表したものについては学会名と数のみ記載すること。

6) 特許等

取得済・出願中の別を記載すること。

注 1) 1) ～ 3) において、**h-index**（研究者が公刊した論文のうち、被引用数が **h** 以上であるものが **h** 以上あることを満たすような最大の数値）を記すこと。また、**impact factor** および **citation index** の合計も記すこと。

注 2) 1) ～ 3) において、印刷公表されていない論文については必ず掲載証明書を添付すること。また、シンポジウムや **proceeding** などの論文は 3) に記載すること。

注 3) 1) ～ 3) において、申請者が **corresponding author** として掲載された論文・総説の頭に*印などを付けること。

5. 主要論文別刷（主なもの10編，電子複写でも可）とその要旨

別刷を提出する主要な論文10編について，著者全員の氏名（欧文の場合は，名はイニシャル），発行年（西暦），論文タイトル，雑誌名，巻，ページ（始めと終わり）の順序で記載し，その後にそれぞれ200字以内の要旨を添付すること．

6. 研究助成金の受領状況（これまでに受領したものすべて）

これまでに研究代表者として受領した科学研究費補助金等の研究助成金の受領状況について，受領年度（期間），研究助成金の名称，課題番号，研究課題名，受領金額（間接経費を含む）を記載すること．

7. 共同研究等の実施状況（これまでに実施したものすべて）

これまでに行った学外・学部外施設との共同研究の実施状況について，実施年度（期間），共同研究施設名，共同研究課題，応募者の役割分担（簡潔に）を記載すること．

8. 系統解剖実習におけるご遺体の管理状況

ご遺体の搬入・保管などの管理状況および感染防止対策状況について記載するとともに，サージカルトレーニング（臨床医学の教育と研究における死体解剖）を実施している場合には，その内容を記載すること．なお，可能であれば大学・部局としての取り組みと応募者個人の取り組みに分けて記載すること．

9. その他の活動，社会貢献等（公開講座，テレビ出演・新聞掲載，生涯研修等）

応募者が自ら行ったものについて，題目，場所・放送局・新聞社・主催者等，年月日の順に記載すること．

10. 教育，研究，管理・運営に対する考え方（今後の方針を含めて）

口腔機能解剖学担当教授として，考えるところを，以下の項目に従って記載すること．

（各2000字程度）

- 1) 教育について
- 2) 研究について
- 3) 管理・運営について

以 上